

# 日本の近代教育に貢献した『ウイルソン・リーダー』と明治初期に於ける教科書 —和徳小学校で使用された『小學讀本』の一致点と比較—

保 村 和 良\*

The comparative researches on the “Shougaku Tokuhon”; Vol.1 and 2  
—Translated and compiled by Yoshikado Tanaka in Early Meiji Period—

Kazuyoshi YASUMURA\*

Key words : ウイルソン・リーダー    Marcius Willson's First and Second Reader  
『小學讀本』                                Shougaku Tokuhon  
和徳小学校                                   Watoku Elementary School in Hirosaki  
明治初期                                    Early Meiji Period

## 1. はじめに

「・・・師範学校ヲ開キ候師範学校ハ小学ノ師範タルヘキモノヲ教導スル處ナリ全軀天下ノ學制ヲ定メラレ盛ニ小学ヲ開キ海内ノ人ヲシテ皆學ニ就カシムルノ御趣意ニ候處差向小學師範タルヘキ人ヲ生シ候儀第一ノ急務ニ有之・・・其急ヲ取り外国教師ヲ雇ヒ彼国小學ノ規則ヲ取りテ新ニ我小學課業ノ順序ヲ定メ彼ノ成法ニ因テ我教則ヲ立テ以他日小學師範ノ人ヲ得ント欲ス今立校ノ規則ヲ定ムル事・・・」<sup>1)</sup>

これは明治五年四月二十二日附けで文部省から正院に提出された師範学校設立のための伺書である。承認を受けた文部省は明治五年九月に『小學教則』を公布し、同時に直轄の師範学校に『小學教則』の編成と合わせて小学校教科書の編集を急がせた。この時、教科書編集に参画し初めて『小學讀本』を世に送り出したのが田中義廉であった<sup>2)</sup>。

本稿の目的は郷土に残されている明治期に使用した教科書や Willson's First Reader を中心に、当時の『小學讀本』に見られるその一致点の考察を目的としている。

主な先行研究としては『師範学校小学教則の制

定』<sup>3)</sup>があり本稿において主たる参考文献とした。

本稿では Willson Reader から『小學讀本』に取捨選択された箇所を掲載し、今まで紹介されたものの以外にも出来るだけ多く載せてみた。その中には日本の小学生に合うように、改良されたり、割愛されたりしながら『小學讀本』に採択されているものが多く見られた。当時のカリキュラムの中で特に注目したいのは「問答」科であろう。『弘前市教育史上巻』にも紹介されているが、詳細には記述されていないので「和徳小學資料」から補足的に書き加えた。

参考にした資料をあげると、①弘前市立図書館蔵『小學讀本卷一』『小學讀本 首一、二、三』『小学連語問答』と『正則ウイルソン・リードル』、『ウイルソン氏第貳リードル獨案内』『ウイルソン氏第三リードル獨案内』②東奥義塾蔵書資料には「長野懸版」の『小學讀本』が全六巻揃っている。「ウイルソン・リーダー」としては当時の大変貴重な THE FIRST READER OF THE SCHOOL AND FAMILY SERIES BY MARCIUS WILLSON (東奥義塾所蔵) を併用した。当時の生徒が使用した箇所に発音の書き込みが随所に見られる<sup>4)</sup>。

明治十一年に現在の学校要覧に相当する『東奥義塾一覽』ができ、その中に「中学予備科」第一学年二級で「ウイルソン・スペリングブック」を使用していたことがわかる。

\* 東北女子大学

## 2. マーシャス・ウイルソンの略歴と

### 『ウ井ルソン・リーダー』の内容

ウイルソンは1813年にアメリカのマサチューセッツ州で生まれ、幼少の頃ニューヨーク州のオンタリオ郡に移り住み、1836年にユニオン大学を卒業、後にフッシュキルランディングにある中高校（ハイランド・ギムネジウム）で古典と数学を教えた。1849年にカナンダイグア・アカデミーの校長に就任、さらにバッサー女子大学の学長に要請された。

引退後は著述業に専念し主に教育教材の読本として三冊のシリーズ読本を出した。

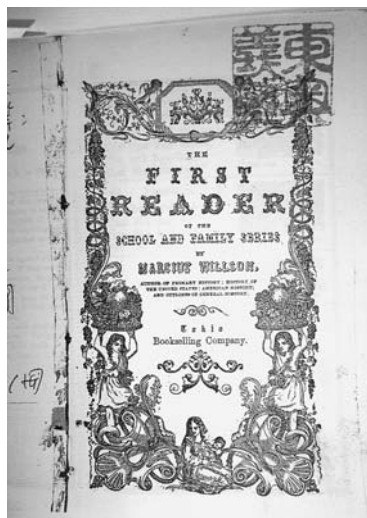
ウイルソンの読本である School and family は1870年代に連続本として大いに売れた。カナンダイグアの校長在職中にペスタロッチ主義教育に傾倒したウイルソンは1862年にその「指導法」と「教育用の掛図」を出版した。この「実物教授」は全国に普及し、ウイルソンは「子どものあらゆる知識は実物から成り立っている」ことを主張した。即ち彼の著書はすべてこの理念にたって書かれており、ウイルソンが子供たちを観察する時の注意を次のように喚起した。

「子供たちを野外に連れ出した場合、自然の中にある無数の形、影、色から子供たちが感じ取る目を尊重しなければなりません。(中略)なぜなら、子供たちは自然の中で感じたことを、もっと知りたいという好奇心から限らない質問をしてくるのです。親や教師たちはこのような子供たちの姿から知識の正確さを確かめるよりも、教育的観点から子供たちに答えてあげてもらいたいと思うのです。耳から入る教育とは全く異なるのです」<sup>5)</sup>

ウイルソンは、自分以外にも、友人たちや親戚をテーマにしたものを書き、農業や歴史にもとりあげられ、彼の書いた「読本」の多くは豊かな感性で書かれ、子供たちの興味を上手に引きだしている。初歩の「読本」の内容には科学的なものは見られないが、動物を含む庶物が多く見られる。

各リーダーの特徴の概略を述べると① First

Reader の最初の数課は子供向けということもあり限られた語彙を使っているために不自然な言い回しが見られるが、第16課では普通の文章構造になって普及した<sup>6)</sup>。



p-1 『ウイルソン第一読本』

② Second Reader では科学の分野より多くの自然分野を扱っている。特徴的なのは「教訓」的な記事が多く見られることである。

③ The Third Reader は聖書からの引用が多く極めて宗教色の濃厚な読本として構成されている。

④ The Fourth Reader は六編で構成されて、1) 人間生理学と健康 2) 鳥類学 3) 植物・草木学 4) 雑学 5) 自然科学 6) 聖書からの略伝、引用など文学からの抜粋、特に詩文、平易な散文が採りいれられている。

⑤ The Fifth Reader, The Sixth Reader 共に前の「読本」とさほど変わりはないが、地学、天文学、化学が加わっているのが特徴といえる。

## 3. 「文部省版」と「師範学校版」

田中義廉編輯、那珂通高による『小學讀本』は文部省から各府県での重刻を許可した為、文章表現と挿絵が多少異なる形で流布した。

文部省編纂『小學讀本卷一』には（明治六年三月 師範学校彫刻 旧「和徳小學校」印あり、次

のような始まりである。

『凡そ世界に、住居する人に、五種類有り、亜細亞人種、欧羅巴人種、メレイ人種、亜米利加人種、阿弗利加人種なり、日本人は亜細亞人種なり』と五人種の挿絵がある。



p-2『小學讀本卷一』一丁表

明治七年八月改正の『小學讀本』とは記述、挿絵共に改正されたものになっている。

明治六年二月に師範学校も『小學教則』に取り組み大幅に改正したことがわかる。これで「下等（六歳～九歳半）、上等（十歳～十三歳）、下等を八級として、修業期間は六ヶ月とする」となったが『師範学校案』には新しく『問答』科が加わった点に注目したい。

前述したように、東奥義塾には『小學讀本』が六巻揃っており『讀本卷一』は「明治六年長野懸反刻」版となって、それは「師範学校」の罫紙の和綴で、一丁の裏から上段に新出語句が別書き出され、限定部数として「五万部限定」の印がある。「卷二」四十丁、「卷三」は三十九丁でそれぞれ構成されており、状態は良好である。

『讀本卷四』は二十七丁で構成、教育内容も高度になり、理科の実験、天体の図、気象学も学ぶようになっている。

『讀本五卷』は三十五丁で構成、教師の書き込みと思われる朱書された部分が全丁にわたり見られた。内容は「有機体」「無機体」から始まり、人、獣、鳥、魚、貝、蟲の総称、運動、知覚を中心とした教科書となっている。その他に人体、骨格、内臓についての説明、図がある。

出版は明治八年六月十五日のもので、編輯は田中義廉である。

『讀本卷六』は表紙に「田中芳男 閱」「田中義廉 編」、この巻で初めて定価が刻印されて「定価十八銭」とある。四十三丁で構成、特徴としては、第一課は「博物」第二課「植物」となっており、次のように墨書されている。

「草、木、苔、菌ノ種類、性質ヲ辨識シ兼ネテ花、實、葉、根等ノ模様ヲ考究スルモノナリ」三十一丁には生徒に外国人の偉人を紹介して、「・・・近時米國ノ始祖タル如日華盛頓ハ海内無比ノ人傑タルコト・・・」としてジョージ・ワシントンの小話挿入されているのが見られる。

#### 4. 弘前市立図書館蔵の『讀本』

- ①『小學讀本 卷二』（明治七年八月改正 文部省 師範学校編纂）
  - ② 34丁で構成、木版和綴
  - ③ 文部省の罫紙を使用
  - ④ 状態が悪く、判読不能の箇所が多数ある。
  - ⑤ 裏表紙には「和徳校所持」と墨書されている。
- 『小學讀本 卷三』の編纂は一、二巻に同じで、33丁で構成され、「和徳小學」の学校印がある。

#### 5. 「和徳小學」に於ける「下等小學」新課業表の「問答」科

下記のように朱書きによる追加・訂正が朱書きされている<sup>7)</sup>。

参考までに「読物」「問答」以外の教科を掲げると、「書取」「作文」「洋算」「和算」「習字」等が教科として授業が実施されたことがわかり、各府県でそれぞれ県独自の「教則」を作成したものである。

以下①から④までが追加・訂正の部分である。（太字は朱書部分）

- ① 当分単語篇ヲ以テ改正小学讀本ノ首一ニ変更ヘ小学讀本、旧本一二三ヲ以テ改正本ノ二三四ニ更フ（＊この部分は欄外に書かれている）
- ② 「小學讀本」首一、二が初めて使われている。（七級 六歳半）

③「小學讀本」三、四では「地理」初歩の項では地球儀を使用しての指導が追加されている。

(六級 七歳)

④「小學讀本卷五」では「日本国尽」を学習するが地図を示すこととある。(五級七歳半)

\*「日本国尽(にほんくにづくし)」「日本六十余カ国と二島〈壱岐・対馬〉の名称を畿内・七道に分けて書き連ねた手本。子どもに方位・方角の観念を与え、宛名、宛所の手習いに役立つようとしたもの」『日本史文献解題辞典』吉川弘文館

下等小学教則(明治6年5月)師範学校編

教科 級	読 物	問 答
八級 六歳	五十音図 濁音 図 単語 図 連語 図 小學讀本卷一ノ一・二	単語図 (諸物の性質・用井方)
七級 六歳半	小學讀本 卷一、卷二	人体ノ部分 通常物ノ図
六級 七歳	小學讀本卷三、 地理初歩 地球儀	形体線度図 地理初歩 地球儀 三
五級 七歳半	小學讀本卷四 日本地誌略卷一 地図	日本地誌略 地図 地球儀
四級 八歳	小學讀本卷五 日本地史略卷二 地図	前級に同じ
三級 八歳半	日本史略卷一 万国地史略卷一 地図	日本地誌略 日本史略
二級 九歳	日本史略卷二 万国地史略卷二 地図	日本史略 万国地誌略 暗射地図
一級 九歳半	万国地誌略卷三 万国史略卷一、三	万国地誌略 万国史略 博物図

文科省「我国の学校教育制度の歴史—「学制百年史」より作成

和徳小学 下等小學課業表 (明治七年四月)

教科 級	読 物	問 答
八級 六歳	五十音図 濁音 単語図 連語図	単語図
七級 六歳半	小學讀本 首一、二	人体ノ部分 通常物 色ノ図
六級 七歳	同上 三、四 地理初歩 兼テ地球儀ヲ示ス	形体線度図 地球初歩 地球儀
五級 七歳半	同上 五 日本国尽一、二、三 兼テ地図ヲ示ス	日本国尽
四級 八歳	同上 六 同上四、五、六	同上
三級 八歳半	日本史畧 同上 七、八 世界国尽一、二	同上 日本史畧 世界国尽 暗射地図
二級 九歳	支那史畧 世界国尽 三、四、五	支那史畧 世界国尽 暗射地図
一級 九歳半	西洋史畧 一、二 同上附録	西洋史畧 同上

和徳小学校『下等小学課業・試験則』より作成

筆者注)「和徳小學」が開校された明治六年十二月一日はまだ「大小区制」が実施中であったために行政区としては「青森県第三大区第一小区和徳町」となっており、学区は「第七大区第十五中学区二番小學」と呼ばれていた。因みに「一番小學」は明治六年十月一日に本町に開校。後に「白金小學」、現在の朝陽小学校である。和徳小學の創設は「弘前教育史別巻年表」では明治七年一月八日となっている。

## 6. 東京師範学校と『問答』科

明治五年五月東京師範学校が創立され、当時大学南校で教師をしていたアメリカ人マリオン・スコットを師範学校に招聘し教員養成指導にあたった。スコットは明治初期の小学教授法、小学教則、小学教科書の編集に携わりながらアメリカの近代教育を導入したお雇い外国人である。



その当時の事情を坪井玄道<sup>8)</sup>に語ってもらうことにしよう。

「・・・師範学校では総て洋語で授業法を教える事になって居るので、私もスコットの通訳として一緒に師範学校へ出る事になった。私は維新前に開成所に入って、英語を学び明治四年一月南校の少得業生となり、年に二十六石の俸給をもらって、師範学校へ出るようになった。校長は諸葛信澄と言って二十五歳位、私は二十一歳の子供であつた。・・・文部省が常盤橋内に移転したので、其の後を師範学校で使用するようになった。学課授業法は勿論、何でも洋風に机と腰掛で授業するのでなければいけないので、わざわざ昌平校の畳を剥がして、穴だらけになった板の間を教場に用いた。・・・」

明治五年八月学制頒布となり、一度に澤山の小学校が出来て来たが、教科書がないので、ウエルソン・リーダーの一、二位までを翻訳して用いさせたが殊に『世界國盡』の如きは読み易く、暗唱し易い様に三五調で歌になっていた<sup>9)</sup>

このように徹底的にいわば、急進改革を推し進めようとした当時の教育政策はスコットを通じてアメリカから取り入れ、明治六年版の東京師範学校の教則が全国的に普及したのである。その中で注目を引いたのが「読物」であつた。これは理科、歴史、地理、修身、家庭科の内容のものが総合学習的に構成されており、「問答」形式で授業を進めていくのである。

当時アメリカの初等教育はベスタロッツ教育原理に基づき Oral Teaching で授業が行われ「オブジェクト・レッスン」を教育の根幹としていた。一方、当時の日本では書物を中心とした「暗唱」中心の教育であつたが、新しく導入されたこの「オブジェクト・レッスン」は児童に「概念」からの指導ではなく、「直感」によって理解させ外部のものを「内在化」する指導であり、意味もわからず誦誦中心の教育には否定的な立場をとった。

このオブジェクト・レッスン Lesson on Object は「庶物指数」と訳されており著者は E・A・

Sheldon (シェルドン) で 1870 年の出版で「幼年生徒に諸種の物体を指示しこれを教育すべき方法をしるしたる書なり」と記してある。

それでは著書の中から授業展開の一例を口語訳で挙げてみよう。

#### 第八課 牛乳のこと

(問) ガラス瓶の内にある物は何でしょう。

(答) 牛乳です。

(問) では、牛乳はどのようにして得るのですか。

(答) 牝牛からとります

(問) 皆さんは水と牛乳の違いがわかりますか。

(答) 其の色が白いことです。

(問) では、其の味はどうですか。

(答) 大変美味しく、甘い味がします。

ここで教師は次のように生徒に復習させます。

「牛乳は美味しくまた甘い味がします」・・・<sup>10)</sup>

明治八年に師範学校教育研究のために文部省からアメリカのオスウィーゴ師範学校に留学を命じられ明治十一年に帰国した高峰秀夫<sup>11)</sup> はジョホノットの『教育新論』を翻訳し、「實物教授」と「實物課の真質」の事項の中で初等教育の段階における問題点を指摘し、次のような見解を示した。

筆者注) 文中原文のカタカナはひらがなに直した。

「初等学校の教授は近来に至るまで専ら素読・暗唱の法に櫟り、生徒の就学前に経験したることを採りて学校の教課に實用せしことを甚だ少し、(中略) 外界の第一着の觀念は實物より官能に由りて心意に達すること明白なり。實物教授とは即此の必須にして缺くべからざる方法のことにして、幼年の時に於いて大いに児童の注意を占めるものなり。此の方法を学校に用ひ児童をして實物を探求し其の性質を学習せしむるときは是れ即實物課なり」<sup>12)</sup>

このように高峰は「實物課」を近代日本の小学教育の目玉として採り入れたい旨をジョホノットと談論し師範学校での研鑽を積み帰国後、明治十四年には東京師範学校校長に任ぜられた。高峰は教授法として本格的に「助教法」(教師→上級

生→下級生へと小学教科を教える教授法)を師範学校で実践したがこれも米国直訳式のものであった。英国ではモニターアル・システム(教生制度)として行われていた。(『吉田熊次著作集 第四巻 301 頁』)

当時教育現場にいる指導者達にはこの「實物教授」には相当戸惑いがあった事は容易に想像できる。さらに指導者達を悩ましたのは等級制による試験が半年ごとに行われ生徒は進級できたので評価を出して成績簿に残して置かなければならなかった。担当した教師も、試験を受ける生徒もたいへんな負担であったのである。

総て短期間にわたり施行された「問答」科は具体例で後述する「讀本」でわかるように、予め○印が付してあり答えが型どおりのもので決まっている文を形式的に覚えてそれに答える授業になったのである。これがアメリカに倣った明治初期のオブジェクト・レッスンの実態であった。

## 7. 師範学校の「教則」の普及による『授業法 七級八級』に見る「問答」科の指導法

和徳小学校の例から師範学校から府県に下付された「教則」に準じて和徳小学の場合は教育現場でどのように指導・評価していたのだろうか。

当時の和徳小学の史料から検証すると、「問答」の趣旨は生徒の会話能力の向上とその習熟にあり、八級の場合は「物」「色」「人体」の「問答」であった。授業の進め方や生徒の出来不出来によって評価点を附していた事がわかる。「問答」についての指導する際の留意点は第一條から第三條までであり以下の通りである。

第一條 「何某」と命じ、一生(徒)を多立たしめ、二三問い答えあれば、他の生(徒)をして代わらしむ、もし答え得ざれば直ちに他生を指して代答せしめ、二三にして尚答うるものなければ、「知りし人」と命じ、右手を掲しめ、以て其中の一生を指して之を答えしむべし、夫れ問答の科は会話を熟せしむるの旨意なるを以て生徒らに答え■も言語明亮にして前後の錯語なからしむるの習慣を

得せしむべし。

この際一人、二問を度とし、明亮に答うる者又は答え得ざるもの、直ちに「ボード」(筆者注: 黒板のこと)に姓名を書き其の下に優劣の評を附して生徒をして相互に競ふ念を起さしむ、二問共に明了(ママ)に答うる者は+ (プラス 4)、一問不明なる者は+ (+ 2)、又二問共に答へ得ざれば- (マイナス 4)等を附す<sup>13)</sup>。

第二條 通常物を問答する、八級に於いて問答したるは単語連中の諸物を實地に就いて問答す、其の方法は八級に異ならずと雖も大より小、又疎より細に入り、努めて詳密なるべし

例えば、一物を問うに天然生のものか、人口に出づるものか、或いは其の生ずる所の土地は製造方法、及び功用等に至るまで仔細に問うべし

第三條 人体を問答するは自ら順席あり、例えば人体を三部に分け、先ず上部には、耳、目、鼻、口の命名を問い次に成立及び請う巧用を問うべし、中部下部も之に準ず、但し教師自らの身体を持ち問答するを良しとす

第四條 色図を問答する方法は色の骨牌を出して先ず、何色と云うやを問、次に正色なるか、又混和したる色幾種なりやを問い、然らば後ち生徒自己の着物の色を、書籍の表紙、其の他諸器物の色を持って問い、児童をして実地活用せしむるを要す

問答ありて、尚余剰の時間あるいは、後日問わんと欲する者の中、児童の知りざる物を懇切に教示すべし、

色の如きは掛図を用い、教師一色を一名に授け、次兩三名に言わしめ、後衆生をして一声同音に言わしむ、一同教ふるは四色を以て度とし、正色、間色の區別及び混和色等を詳らかに教うるべし<sup>14)</sup>  
筆者注) 文中原文の片仮名はひらがなに直してある。

## 8. Willson Reader と『小學讀本』第二、三巻

『小學讀本』の第一巻と第二巻に部分的に「ウイルソン・リーダー」が翻訳されて採用されている。先ずは原本の構成とその特徴を挙げ、次に原

文と翻訳部分を各章ごとに掲げていくことにする。

THE FIRST READER BY MARCIUS WILLSON (弘前市立図書館蔵)

①縦 18 × 11 × 1cm 191 ページ

②「目次」無し

③定価の記載なし

④師範学校の罫紙を使用

⑤一丁から三十五丁で構成

⑥三十五丁表以下の内容は次の通りである。

1. 徳川幕府よりの貨幣四種類について(天保通貨、寛永通寶、文久永寶、寛永通寶)

2. 金貨幣、銀貨幣、銅貨幣についての説明文あり。

⑦近藤駒吉 譯 明治十九年十一月五日出版

### Lesson III

This boy has a new kite. Do you see run with it ?  
He can fly the kite in the air. \* kite 紙鳶  
He has hold of the line.

Do you see the kite go up ?

It is up in the sky .

Take care : or the line will get fast in the tree.  
\* get fast カラム

『小學讀本 卷一』 六丁表 挿絵あり

此小児は新しき凧を持てり、○彼が凧を持ちて、走るを見よ、○彼は凧を空中に、飛ばせんと思えり、○汝は、凧の揚げるを見んと欲するや、○凧が空中に登りたるとき心を用うるべし、○糸の、木に懸ることあり、

注)『讀本』では「問答」形式になっているために○印が付いている。

### Lesson V 第五章

See the cat ! It is on the bed. It is not a good cat if it gets on the bed, Can you make the cat get off ? Will the cat bite me if I put my hand on her ?

May the cat go, or may she stay? The cat may

stay in the room,

But she must not stay on the bed.

Did you see the cat have a rat ? It was not a big rat.

文部省編纂 『小學讀本 卷一』 明治六年三月  
師範学校彫刻 六丁表～七丁裏  
挿絵あり

此猫を見よ、○寢床の上に、居れり、○これは、よき猫にはあらず、寢床の上に乗れり、○汝は猫を追退くるや、○私の手を載するときは、猫が私を噛むべし、○猫は餘所へ、行くべきや、又は此の所に留まるべきや、○猫は此の部屋の中に留まるといへども、寢床の上に、乗るを許さず、○汝は猫が鼠を捕らえるを見しや、○それは大なる鼠にあらず、

### Lesson VI 第六章

Do you see the man in the boat? How can he make the boat go? He has on oar in his hand, and he can row the boat with the oar.

The boat is on the lake. Fish are in the lake ;but they are down so deep that the man can not see them. Will the man can not see them. Will the man fish for them?

七丁裏

汝は、小舟に乗りたる、人を見しや、如何にして、彼は小舟を動かすや、○彼は櫓を以て、小舟を漕けり、○小舟は湖水の中にあり、○魚は湖水の中にありといへども、深水に、あるゆえに、見ることも能はず、

### Lesson VII 第七章

Do you see the boys at play?Yes,I see them. What do they play with ?

They play with a ball;and the ball is as large as my head. They kick the ball.

Do you see them do it? No; but I see them hit it with a club.

Is it a hard ball? No; it is a soft ball; and if it hits

them it will not hurt them.

Boys love to play, but they must not play all of the time. Do you play too long when it is a hot day. You must not get too warm, for that will hurt you.

『小學讀本 卷一』 八丁表～八丁裏 挿絵あり

筆者注) 直訳式で野球の様子を描写したものであるが三人がバットを振り回しているところに注目したい。



p-3『小學讀本卷一』  
明治六年三月師範学校彫刻 八丁表

彼は、球を蹴で遊べり、汝はそれを見しや、○私は棒を以て球を打つを見たり、其球は堅きものなるや、○これは、柔らかなる、球なるゆえ、人に當るとも傷つけることなし、○小児等は球遊びを好み、○それは遊ぶに、善きことなれども、終日遊ぶべからず、又熱き日には長く遊ぶべからず、強き熱さに、觸るべからず、然るときは、身を害ふものなり、

口語訳にて紹介してみたい。

「彼らはボールを蹴っているよね。見えるかな」「いや、それは蹴っているのではなくて、何か棒で打っているよ」

「そのボールは硬いのか」「いや、軟らかいから当たっても大丈夫だよ」(以下略)

(筆者注: 義塾所蔵のウイリソン・リーダー p15 の挿絵では従来の野球の形になっている)



p-4『ウイリソン第一讀本』二篇 p15

Lesson VIII 第八章

The sun is up and it is time for us to get up. We must not lie in the bed when the sun is up. We can see the sun now, but we did not see the sun rise, (rise)

Do you see how red the sun is? Will it rain when the sun is so red, or will it be dry time? Can you tell?

『小學讀本 卷一』 八丁裏 挿絵あり

太陽の登り(ママ)たるときは、我等の起き出べき、時刻の来たりと知るべし、○太陽の登りたるに、猶寝所に臥すべからず、○我等は太陽をみると、日の出を見ることを得ず、○汝は、太陽の赤きときを見しや、太陽の赤色なるときは多く早することあり、

Lesson IX 第九章

What bush is this? Is it a rose -bush? Do you see the buds on it? The bush is full of red buds. May I pick a bud? No, do not pick it now. If you will let the bud be on the bush, in a few days it will blow out, and be a fine fine red rose.

Then you may pick the rose.

\* be アルデ then 然ルニ (筆者注: rose 日本語訳では「海棠」(カイドウ))「バラヤブ」となっ



ている。植物名。バラ科の落葉低木。シナ原産。花は淡紅で、五弁または重弁。四五月頃開く)『角川古語大辞典 第一巻』

これは、何の樹なりや○それは、海棠の樹なり○  
汝は海棠の中に、蕾のあるを見しや、○此樹は赤  
き蕾にて満ちてたり、○秋には蕾を取り得べきや、  
○それをば今取るべからず、○今暫く過ぐると、  
其蕾は皆花を開き、奇麗なる、赤き海棠となる、  
其とき、汝は海棠を取るべし

#### Lesson XI 第十一章

Ann has gone to feed the hens. Do you see her? Do you see the hens eat? Do you see how fast the old hens eat? Can a birds eat as fast as a hen? Can it eat as much? O, no. It can not eat so much. What do the hens eat? They eat corn.

#### 『小學讀本 卷一』 九丁の裏 挿絵あり

英文では女性名アンとなっている。英文法では「完了形」が出てくる。

彼人は牝鶏を養う為に行きたり、○汝は牝鶏の食餌するを見しや、○汝は老いたる牝鶏の、速くに食するを見しや、○それは、與ふるほど、食するや、○否それ程多くは食し得ず、○牝鶏は、何を食するや、○彼は穀物を食せり、

#### Lesson XIII 第十二章

Do you see Jane? She has a bird, and she has put it in a cage.

Do you see her feed the bird?

Is the bird tame or wild? The bird is tame now: but once it was wild. The bird is a jay.

\* jay (カシドリデ) (筆者注:カケス)

#### 『小學讀本 卷一』 九丁の裏～十丁の裏 第三回

英文では女性名ジェーンとなっており、次の十三章と内容は同じものである。

彼女は、鳥を捕らえて、鳥籠に入れたり、○汝は彼の鳥を飼うのを見しや、○此鳥は馴れたりや、又は暴ることありや、○此鳥、今は、馴れたりといへども、以前はよく暴れたり、○汝は此鳥の歌を聴くことを好むや、又好まざるや、○私は歌を聞くことを好み又尚、鳥を見ることを好み、○鳥は跳るや、又は飛ぶや、○これは、木の上へ飛び上がり、又水の枝に息へり、○此鳥、籠より、出づることを好むや、○若(し) 籠より出でるときは、再び帰り来るや、又は飛び去るや、

#### Lesson XIII 第十三章

Can a bird sing? Yes; it can sing. Do you like to hear it sing? Yes; do not you like to hear it? I like to hear it sing, and I like to see it too. Did the bird hop, or did it fly? It flew up to the top of the tree, and now it sits on a limb of the tree. Can the bird see me now? It can see you, and it can hear you, too. Is that the bird that Jane lost? Yes; it is the same bird. Is it glad to get out of the cage?

Will it come back, or will it fly off?

#### PRRT III 第三篇

#### Lesson I 第一章

\* 挿絵あり

#### Lesson II 第二章

Do you see this old man with a staff in his hands? Why does he use a staff? He sits on a rock by the way-side, and rests his hands on a cane. His face and his white beard show that he is an old man, and that he is bent with age.

Do you need a cane to walk with?

Why not?

First I said staff, and now I say cane. Is a cane the same thing as a staff? What are canes made of?

Has this old man a hat on his head? Is it a hat or is it a cap? It is not a hat, and it is not a cap.

Can you tell what it is? Why does the old man sit there? Can he get up? Can he walk? Yes; the old man can get up, and he can walk; but he can not walk fast.

『小學讀本 卷一』 十一丁表 挿絵あり

老人の杖を携ふるを見しや、○何に由て、彼は杖を用いるや、○彼老人は路傍の石の上に息ひ、其手を杖の上に置けり、○彼の顔と白髭あるに由て、彼の、年老いたるを知り、又、老年に由て、體の屈みたるを知れり、○老人は杖に倚て歩行す、杖なくては、何故に歩行し難しや、○彼は起つことを得べきや、又は歩行することを得べきや、○彼は起つことを得、又歩行することを得るといへども、速くに走ること能わず、

### Lesson III 第三章

Blow! Blow! Blow! How hard they blow! They make a loud noise; so loud that it can be heard a great way off. Do you know what it is they make a noise with?

And you tell me the name of it? Is it a horn? Do you think that is the right name? Are these old men?

No; they are not old men. Are they boys? How can you tell that they are not boys? Do they stand up, or do they sit down? Have they hats or caps on their heads?

Can you tell which? Here are four more men. Do you think they are old men? Are they as old as the old man with the cane in his hands?

See the eyes of these men! See how they look! See the hands of the man who has a cap on his head?

Do you think he is a good man? I think not.

『小學讀本 卷一』 十二丁表～十二丁裏 挿絵あり

彼等の持ちたる笛の名は如何なるや、○此は喇叭なり、○彼等は老人なるや、○否彼等は老人にあらず、○皆小兒なるや、○彼は小兒にあらず、少年なり、○彼等、常に立ちて、座することなきや、

○彼は、皆に帽を携へり、

茲に、四人以上の人あり、○此人の、年老いたるを知るや、○此人は、皆手に杖を持ちたる、老人と同じく、年老いたり、○汝は此人皆手に杖を持ちたる、老人とおなじく、年老いたり、○汝は此人を、善き人と思ふや、○此人の顔は、善人なるべし、○此人は白き髭あるゆえに、老人なるべし、○我等は、簡様なる顔を好み、

### Lesson IV 第四章

This must be an old man, for he has a long white beard. What a fine face he has! I like such a face.

This must be a good man, for his face says he is; and I do not think his face will tell a lie.

What do you think he has in his lap? Do you think it is a book? No, it is a roll.

A roll? A roll of what? Can you tell what it is a roll of? Do you see the eyes of this man? Does he look at the roll? What else do you see? I see an ink-stand, and a pen in it. The man can take the pen, and write on the roll, and then he can read from the roll just as well as from a book. Will the good old man read to us, If we ask him? Does he like boys? Yes, he likes good boys. No one likes bad boys.

『小學讀本 卷一』 十二丁裏～十三の裏 挿絵あり

汝は此人の幅紗の中に、何を持つと思ふや、○それは本なりや、○否巻物なり、○何の巻物なるや、○汝は其巻物なることを、説き得るや、○汝は此人の目を見たりや、○彼の目は巻物を見たり、○其他、汝は何を見しや、○我は、墨壺と筆を見たり、○此人は、筆を操りて、巻物に書く、其巻物を読むこと、本を読むが如し、

良き老人は、我が好みに従いて、我に聴くしむるや、○彼は小兒を愛するや、○然り、彼は善き小兒を愛す、されども、更に悪しき小兒を愛することなし、○善き小兒なれば、色々の教えを、説き示すことあり、

## Lesson IX 第九章

A nose, an ear, a mouth, and an eye. The nose is to smell with, the ear to hear with, the mouth to taste with and to speak with, and the eye to see with.

Is not this a fine face? We have but one nose, and one mouth; but we have two eyes, and two ears. As we have but one mouth, and two ears, we must not speak so much as we hear.

『小學讀本 卷一』 十九丁表～十九丁裏

人に、耳、目、口、鼻あり、○鼻は香りを嗅ぎ、耳は聲を聞き、口は食を味わい、又物を言い、目は物を見るものなり、○人は只一つの鼻あり、一つの口あり、されども、二つの目と一つの耳あり、○只一つの口にして、二つの耳、二つの目あるゆえに、見聞く如く、多分に語るべからず、○又人には、二つの手と、二つの足とあれども、只一つの口あり、ゆえに、業を多くなして、話を少しなすべし、

## PART IV 第四編

## Lesson V 第五章

It is cold now and there is snow on the ground, and on the trees, and in the pond. It is winter.

Boys love to skate on the ice, and to slide down hill on a sled. They must take care, or they will fall on the ice, and hurt them. John has a new sled, and he will let James take it to slide on. Is not John a good boy? Good boys and girls will be kind to their mates, and kind to all.

Which do you like best, Winter or Summer? One boy slides down the hill on his sled. See him lie down on his sled! Do you see the girl on a sled? Does she look cold?

She has a muff to keep her hands warm.

\* muff (腕ハメラ)

『小學讀本 卷一』 二十丁裏～二十一表 挿絵あり 冬の遊びについての注意

今日は、寒き日和なり、○雪が地上にも、樹にも、池にも積もれり、○小児は、氷の上を滑ることを好めり、○此の遊びは、甚だ危なきものゆえ、能く心を用いるべし、○もし、氷より落つることあれば、身を傷ふべし、○善き小児は此危き遊びを、好むことなし、

## Lesson XII 第十二章

Here are four children: two of them are sitting down, and two are standing up; and a good man is telling them about God and his works. He tells them that they must love the Lord in their youth: and that if they wish to be happy they must be good. Those little children are now in the *spring-time* of life, and now is the time to snow in their minds the seeds of wisdom. A full-grown and active man is said to be in his *man-hood*; but old age is called the winter of life.

The old man whom you see with a cane in his hand, is lame and blind, but he was a boy once, and then he could run, and jump, and play, as well as you can. Now he totters along, and a little child leads him. He is now in the *winter* of life.

wisdom (才能) full (充分生キタル) active (活発ナル) man-hood (壮年ニ)

but (乍併) whom (トコロノ) cane (杖ヲ) totters (ヨロケル)

『小學讀本 卷一』 二十三丁表～二十四丁裏 挿絵あり

茲に、四人の小児あり、其中二人は座し、他の二人は立ち○一人の老人ありて、此小児等に、神明の話を、聞かせり、○又老人の云ふには、総て小児は神明を畏敬して、我身の幸を、願わんとならば、善き心を持ち、善き道を行うふべし、○小児のときは、春の時候の如し、正に我心に、知恵の

種をまくときなり、知恵の種を蒔く時は学問することなり、○成長して壮年に至れば、人間の働くべき時と思ふべし、○老年に至れば、冬の時候の如し、茲に、手に杖を携へたる、老人あり、足も不自由にて、目も暗くなれり、されども此老人も、一時は小兒にて、其時は、今の汝等の如く、早く走り、又遊び戯れたり、○今は、足も震へるゆえに、小兒の肩に■りて此れが爲に導かれたり、○身よ此老人は、冬の時候の至れるなり、○汝等も長く春の時候にはあるべからず、必ず、此老人の如くなるべし、

### Lesson XIII 第十三章

Thou art an old oak tree. But who knows how old thou art? Thou hast a large trunk; but if we could saw thy trunk in two, and count the rings of thy growth, we could tell thy age.

It would be equal to the number of the rings. But we will not cut thee down. The ax shall not harm thee. We will spare thee, thou old oak tree, for thou art an old friend. We love to look on thee, and to sit in the cool shade of thy branches. Thy branches are large; they reach up to the sky, and they toss to and fro in the wind. The birds love thee; they sing in the branches, and there they build their nests, and rear their young. Once thou wast young; thou wast a little spring that a man might take in his hand; but now thou art tall, and large, and strong. Now a man cannot push thee down with his hand, and nor tread on thee, nor pull thee up by the roots.

Many years have gone by since thou wast young. Thy bark was once smooth, but now it is rough with age. Cold and keen winds have blown on thee; hail has beat upon thee: the rain has wet thee; and the snow has hung on the thy branches. But thou dost still live; and in a ripe old age thy branches are yet green. But many are the trees that die before they grow to be as

old or as large, as thou art.

Often they begin to die at the top.

Their dead branches look, among the green leaves, like gray locks on the head of age. Who has made them differ from thee? This oak tree grew from a little seed (seed); from a little acorn that you might hold in your hand, and or put into your pocket.

Thou art 汝有ル hast 持ツ could saw 克ヒシ 鋸 growth 長生ウ

『小學讀本 卷一』 二十四丁裏～二十五丁表 挿絵あり

茲に、樫の大木あり、○汝は、此の木の年を経たる、数を知るや、○今此の木を、横に切り離して、木目の輪を数え見るべし、○木目の輪は、一年に一つ充増すものなれば、輪の数にて、此木の年を経たる、数を知るべし、○此木は、今大になりて、枝を、空に至るといへども、其初めは、僅か一つの種より、生じたるなり、其種は、至って小さきものにて、汝の手に、持ち得べきものなり、

### Lesson XIV 第十四章

O God, I thank thee that the night. In peace and rest hath passed away; And that I see, in this fair light. My Father's smiles, which make the day.

Be though my guide; and let me live. As under Thine all seeing eye: Supply my wants, my sins iorgive (forgive), And make me happy when I die.

『小學讀本 卷一』 二十五丁表～二十五丁裏 挿絵あり 神棚に向かう兄弟のように見える。

天津神、再拜、昨夜も、無難に過ぎて、大幸なり、今朝、夜明けて、光を下し給うにより、父母の息災なる顔を見ることを得たり、多謝、○私を、導き給え、幸を興へ給え、もし過ちあらば、免し、給え、○私の死するとき、天道へ導き給え、拜、



天津神トワ、天御中、主神、高皇産霊神、神皇産  
霊神、天照大御神ヲ云ウ



p-5 『小學讀本卷一』 二十五丁表 師範学校

筆者注) 原文は二十五丁裏には「神」についての注釈が記してあるがキリスト教の God を翻訳する上での苦心のあとが見られる。聖書からの引用が散見できる他の教科書として『小学連語問答』(明治九年十一月版)がある。同書は東奥義塾にもあり、市立図書館蔵のものと同文の説明文がある。「バイブルからの引き抜き、西洋の影響が見られる国語の教科書」とある。

#### Lesson XV 第十五章

These men have been out on the lake in a boat, and they have caught some fish in a net. When the net is drawn in the lake, it takes in all the fish it meets with, the large and the small the good and the bad. Do you see the three men? Do you see how many fish they have taken?

There is a large heap of fish on the shore. Some of them are good, and some are bad. One of the men has just thrown two bad fish back into the lake.

The man that is partly sitting down is just putting a nice large fish into a jar. Do you see the two jars? When they get the jars full of nice fish, they will take them home.

\* heap (積ガ)

『小學讀本 卷一』 二十五丁表～二十六丁表  
挿絵あり 第六回

此の人等は、小舟に乗りて、濱邊に入り、網を以て、魚を捕りたり、○濱邊に、網を引くときは、これに罹りたる魚は大なるも、小なるも、又、良きも、悪しきも、皆一同に、捕ふることを、得るなり、○汝は茲に三人の男あるを見しや、○又彼等は、数多くの魚を捕りたるを見しや。○海水の中には、多分の魚あれども、中に良きものと、悪しきものとあり、○一人の男は、悪しき魚を二、四匹海中へ投げ入れたり、○又、一人は、屈みて、大なる魚を、瓶に入れる所なり、○汝は、二つの瓶あるを、見たりや、○此の瓶に魚を入れて、満ちたるときは、我が家に持ち歸るなり、

#### Lesson XVI 第十六章

What place do you think this is? It must be a garden. There must be a great many nice things there. Do you think it is a fine place for these boys and girls? Do you think they like to play there? Do you see the boy who has a spade in one hand?

Which hand has hold of the spade, the right hand or the left hand? Can you tell which hand has hold of the cap?

Do you see the girl that stands near this boy? What do you think she has in her hand?

I think it is a little hoe. Which hand has hold of the hoe? Do you see what the other boy is doing? What does the other girl hold in her hand? In which hand? Do you see the girl's bonnet? Is that a little girl, also, who has a basket on her head? No; that is the servant. She has been to the garden to get some melons for dinner. Do you see the melons in the basket? Do you think the melons are ripe?

Would you like to have such a garden to walk in? Do you see the two dogs in the garden? What are they doing? Do they seem to be playing? Here is a garden, also. It is not the

garden that we saw on the other page.

One man has a basket full of grapes. A child is picking grapes from the vines. The grapes are ripe now. One woman is sitting down and a little child is near her. The man who stands up is talking to the woman.

This man has a long beard, and his feet are bare. We do not know what he is saying.

『小學讀本 卷一』 二十六丁表～二十七丁裏  
三枚挿絵あり

此処は如何なる、場所と思うや、○此処 は、花園なり、○茲に数多くの、美しき花あり、○茲に数多くの、美しき花あり、○此愛らしき小児と娘との、遊び場所に、設けたりと、思ふや、○汝は、此小児等を、喜んで遊ぶと思ふや、○左の手に、鋤を持ち、右の手に、帽を持ちたる小児あり、○小児の後に、杖を持ちたる、娘あるを見しや、○一人の娘は、瓜を入れたる、籠を持てり、○汝は、花園に行きて、遊ぶとき、猥に花を折り、果物を取るべからず、  
茲に葡萄の棚あり、○一人の男は、葡萄を積み入れし、籠を持てり、○又腰を掛けたる、一人の女あり、其の膝の上に、小児を抱けり、○小児の兄は、立ちて、葡萄の房を取れり、

筆者注) 英文に記載されていない部分を以下にあげる。

此男は、花園を作る人なり、○傍に小児あり、○此人は小児に向て、猥りに、果物を取るべからず、又花を折るべからずと云う、○又私は果物を取りて與ふべし、故に小児は自ら取るべからずといふ、○もし此人の教えに、従わずして、自ら花を折りたらば、再び花園に、来るを得ざるべし、

Lesson XVII 略

Lesson XVIII 第十八章

God can see me every day. When I work, and when I play; When I read, and when I talk;

When I run, and when I walk; When I eat, and when I drink; When I sit and only think? When I laugh, and when I cry, God is ever watching *nigh*. When I'm quiet, When I'm rude, When I'm naughty, when I'm good; When I'm happy, when I'm sad, When I'm sorry, When I'm glad; When I pluck the scented rose, That in my neat garden grows; When I crush the tiny fly, God is watching from the sky. When the sun gives heat and light, When the stars are twinkling bright, When the moon shines on my bed, God still watches o' ver (over) my head; Night or day, at church or fair, God is ever, ever near, Marking all I do or say, pointing to the happy way.

\* *nigh* (近ク) *rude* (荒ク) *naughty* (頑固デ) *good* (善ク) *I'm* (私ガ アル)

『小學讀本 卷一』 二十九丁裏三十丁表 挿絵あり  
筆者注) 若干記述に相違あり。ここでも「天津神」が登場するが、子供たちには「神」はいつも見ているのだから「悪い事をすると天罰が下る」と教えている。

天津神は、常に我を守り給えるゆえに、私は一人にて暗き夜中に、歩行するも恐るることなし、○眠るたるときも、神は守り給えるを以て、暗きところに一人眠るも恐れず、○暗き所にて神は能く見給へるを以て、人の知らざる所にて悪しきことをなせば、忽ち罰を蒙るものなり、○人の知らざることにても、神は能く知り給ふて善きものには幸を與へ、悪しきものには、罰を與ふ、

Lesson XXIV 第廿四章

Now the sun has gone down, and it will soon be dark. The men have come in from the field. The cows are in the yard, and the gate is shut. Jane has been to the yard to milk the cows, and now here she comes with her pail full of milk. James would like some new milk to drink, and puss would like some, too. Do you see puss? Does she see as if she were asking for milk?

The hens have gone to roost. Do you see old Fido sitting by the door? What so you see

suppose he is thinking about? Do dogs think?  
Fido will keep watch all night; and no thief will  
dare to come near the house. Fido is a good dog.  
A good dog is of much use to a farmer.

thief (盗賊) dare (肯ぜ) puss チン \* (猫)  
『小學讀本 卷一』 二十九丁表～裏 和洋折衷  
の挿絵

日暮になりたり、○人は野より歸り来りて、牛は  
庭にあり、○一人の女は庭に出て、牛の乳を搾り、  
手桶に十分、乳汁を得たり、○此女子は、新しき  
乳汁を飲むことを好めり、○汝は、戸の傍に犬の  
あるを見たりや、○此人々は、甚だ忙しき人と  
思ふや、○日暮になりたれば、今日、苳りたる（カ  
リ）草を積み入るるために忙しきなり、

## PART V 第五編

Lesson I 第一章 挿絵あり この課では「数  
の指導」を入れている。

p155

Can you count? Can you count one, two, three,  
four, five, six, seven, eight, nine, ten pennies?

If John should give you ten apples, and Mary  
should give you six, can you tell me how many  
you would then have?

You must learn to do a great many little sums.  
Do you ever play marbles? How could a boy  
play marbles if he could not count them? Do  
you know to write figures on a slate, or on  
papea (paper)? Can you make the figures for  
four, six, eight and nine? If you can not make all  
the figures, you must learn them. Here they are  
—1 2 3 4 5 6 7 8 9—0

『小學讀本 卷一』 第七回 三十丁表～  
三十一丁表

汝は物を数え得るや、○もし父が汝に林檎を十一  
與へ、母が汝に、林檎を五つ、與ふときは、汝  
は幾つの、林檎を得るや、○十六の林檎あり、○  
汝等は、物を数ふることを、学べし、○大なる

数と、小さき数を知るべし、○汝は石盤、又は紙  
に数字を、書き得るや、○もし、数字を書き得ぬ  
ならば、努めて、之を書くことを、学べし、○  
物の数を知らざるは、愚かなる人なり、

注) 英文では林檎の数を 10 と 6 であるが、「讀本」では  
11 と 5 となっている。また以下のような、追加文を載せ  
ている、

机の上に、十一の梨あり、この中、三つを、汝が  
持ち去りたり、然るときは、机の上に残りたる梨  
は、幾つとなるや、○残りたる梨は八つなり、

## Lesson II 第二章 p157

筆者注) ここでは「足し算」の練習として「問答」で行わ  
れている。

Two peaches had John: His sister has one: They  
gave them to me, And then I had three.

*Two and one are how many?*

Two peaches had Jane, And Mary two more:  
They gave them to me, And then I had four,

*Two and two are how many?*

Mary had a cushion, Given by her mother;  
It had five pins on the side. And four pins on  
the other.

How many pins in all?

Were on the little ball? *Five and four are how  
many?*

\* cushion (針挿ヲ) pin (留針)

## 9. 『ウエルソン第二リードル』から『小學讀本』 への翻訳

Willson's The Second Reader ウエルソン式

第貳リードル 獨案内

馬場栄久 細井禧吉 合譯

明治十八年十月出版

東京 隨時書房発兌 坤卷

18.5 × 12 1cm

①目次なし

②各英文の上段にはカタカナによる読み方が記載  
されている。

③下段にはそれぞれの単語の意味を記してある。

④ 235 ページで構成

⑤明治十八年四月廿四日版權免許

⑥定価 記載なし

## Lesson VII 第七節

Lazy Slokings, the thief 盜賊ナル怠惰のスローキング

Did he become a drunkard? Yes, he became a drunkard: and then he stole money to buy rum with and then he was put in prison - a poor old drunkard on the bed of straw.

But what became of his wife ? Turn to the 114<sup>th</sup> page, and you will see.

(中略) Do you know what the Bible says about strong drink? It says, "Wine is a mocker; strong drink is raging.

Who hath woe? Who hath sorrow? Who hath contentions? Who hath babblings? Who hath wounds without cause? Who hath redness of eyes?"

They tarry long at the wine. The Bible also says, "Look not upon the wine when it is red. At last it biteth like a serpent and stingeth like an adder."

『師範學校編輯 小學讀本 卷三』 明治七年八月改正 文部省刊行

筆者注) この「卷三」では「怠惰な生活」の戒め、と「飲酒」の害を教えている。第十三、十四にも「怠惰と飲酒のために獄死した人の話」を例にして掲載されている。

此の図は即前の怠惰ものにして、今日少しの金を得たり、されども、平生、酒を好むの癖あるゆえに、己の家に帰らずして直ちに酒店に行きたり、彼を甚大酒にして得ざる金の盡るまで酒を止むことなし、

彼十分に酒を飲むときは其心、狂乱して、暴行をなし、或ハ路傍に、倒れて前後も知らず眠ることなり、是ゆえ時として、少しの金を得ることあれども、飲酒の爲に之を失いて、衣裳等を求むることを得ず、

此怠惰と飲酒とは極めて悪事にして、これより多くの悪業を生ず、凡て人は大飲すれば翌日身体勞



p-6『小學讀本卷二』十九丁

して職業をなすこと能わず、職業をなさば、金を得ること無し、金を得ることなれば、我日用の品は乏しくして、万事不自由なり、故に或悪しき道にても、金を得んことを願ひ、屢し屢人<ルニン>を欺くに至るものなり、○されバ平生、戒むべきハ怠惰と飲酒なり、第十二 十九～二十帖

尚 第十三、十四 にも「怠惰と飲酒の害から獄中死した人の話」が掲載されている。

## Lesson XII 第十二節

UNCLE TOBY 諸父 オジノ トービー

Uncle Toby is telling Robert and Mary where he has been and what he has seen. He has been all around the world; he has seen many strange lands; he has seen a great many people; and he tells a great many funny stories.

Uncle Toby is telling them now that he was once in a very cold country where the sun did not rise for three whole months, and it was night here all that time. The people lived in houses made of snow and ice. Where do you think that country is ? Perhaps your teacher will tell you. Uncle Toby says he has seen mountains whose tops are so high and so cold that the snow never melted there. A man would freeze to death before he could climb to the top of such a mountain. (以下略)

Would not you like to have some one tell you just such true stories as Uncle Toby told?



All the stories that Uncle Toby told were true.  
True stories are the best stories

『師範学校編輯 小學讀本 卷三』 明治七年八月  
改正 文部省刊行

二十三～二十四丁に同文あり 文部省の罫紙を  
使用。見開きに「青森県中津軽郡和徳小学印」の  
朱印。表紙には「国全三 丙 第二」の印あり。

#### Lesson XIV 第十四節

BOAT ON THE WATER 水ニ於テノ小  
船

Mary has put her boat on the water in the  
pond that it may have a sail. She keeps a  
long string tied to it that it may not be blown  
away, and get lost. Mary's boat is a sloop, for it  
has only one mast. Do you know which the mast  
is? The wind blows against the sail and drives  
the boat on the pond, just as it makes great  
ships sail on the sea.

Henry has a boat also. He is putting it on the  
water. It has two masts. Such a boat is called  
a *schooner*. If it had three masts, it would be  
called a *ship*.

All such boats are also called sailing vessels,  
because they have sails. The sails are made of  
stout cloth. That part of a ship on which men  
walk is called the deck. At the back part of the  
ship is a helm. The use of the helm is to guide  
the ship.

Sloop (スルーペデ) mast (檣) (しょう) (ほばし)  
helm (舵)

筆者注) schooner 教科書では英語をそのまま使用してい  
る、スクーネル 二本マスト以上の縦帆式帆船

『師範学校編輯 小學讀本 卷三』 明治七年八月  
改正 文部省刊行 二十五～二十六帖  
挿絵あり

「一女兒池ニ小さき舟を浮かべたり、其の船の帆  
を只一張なり、女兒はこの舟に結び付けたる長き

紐を操りこれ船の遠く流れるるとも失いさる為なり、此の女兒の浮かべたる船は一本の檣（ほばしら）あるゆえにこれをスルーと云う、凡て舟の檣に帆を張り風を受けて、舟を行くものなり、大海に浮ぶる、大船も、同じ理なり、又一男兒も小さき船を持ちて、これを池上に浮かべんとする、此の舟は二本の檣なり、これを、スクーネルと云ふ、もし三本の檣あるときは、これをシップと云ふなり、凡て斯の如き舟を、帆前船と云ふ、帆を張りて、行くなり、帆は麻の厚き織物にて、造るなり、船中にて人のス■らくと処を甲板といふ、○舟の首を艫くトモ>といひ、舟の後を舷といひ、左の舷を取楫といふ、○船後に突き出て水中に入りたるものを舵といふ、舵ハ、舟の行くべき方角を、定むるものなり、

#### おわりに

『ウエルソン・リーダー』の日本への流入とその経緯については前述したスコットが教科書、教材、教授、指導にいたるまですべて行ったものと認識していた。明治四年九月に教科書編纂の為に編輯寮が発足したが、教科書編集作業は遅々として進まなかったために〔倉澤（学制の研究）710〕南校教頭であったフルベッキ G.H.F Verbeck<sup>15)</sup>が「小学校之書籍」を作成し、当時の文部卿大木喬任へ「教科書具申」がなされた。南校簿「含要類纂卷之世三、本省往復之部明治五年」には十五項目にわたり教科書名が見られ、その中にウエルソン・リーダーが絵図ともに挙げられている。また教科書以外の教育器材として初めて「黑板及び胡粉（チョーク）」があげられた。〔倉澤（学制の研究）711〕

本稿の「はじめに」で紹介した「小学教師教導場ヲ建立スルルノ伺」で教材すべてをアメリカに注文した文書が見られる。

『右はウエルベッキ相撰學校ニ相用候書目にて米國江御注文相成御取寄書中へ取捨を加江反譯いたし候ハ、日本全國中小學ニ相用候て適宜之書ニ相考候就ては御沙汰次第米國江注文可致候也』〔(学制の研究) 710: 711〕

また明治初期の翻訳教科書の採用については「ウイルソン・リーダー」のほかにも、「マガフィー・リーダー」からの採用説〔日本大学:教育雑誌第28号:1994〕もある。筆者は「マガフィー」の原本は未見であるので検証のうえ今後の新たな課題としたい。

# [注]

- 1) 『小學教師教導場ヲ建立スルノ伺』二十五  
太政官 記録課 壬申四月二十二日  
文部省ヨリ 正院御中
- 2) 田中義廉 (たなか よしかど) 天保12年~明治12  
信濃国伊那郡飯田の医師田中如水の子として生  
まれた。兄に博物学者芳男がいる。慶応三年  
(1867) 年幕府海軍出仕した。維新後、新政府に  
出仕、海軍学校御用掛として海軍操練所(海軍  
兵学校)の創立事務に当たり兵学大助教に挙げ  
られた。明治五年文部省に転じ教科書編纂に当  
たった。『小學讀本』を編纂翌六年全四巻として  
刊行。(『日本洋学人名事典』武内博 編著 柏  
書房)
- 3) 『学制の研究』(講談社)「師範学校小学教則の考察」  
倉澤剛 (687頁~699頁)
- 4) この教科書は桜庭駒五郎の寄贈本である。Tokio  
Bookselling Company とあることから東京で複  
製本として流布したものであるが残念ながら年  
代の記載は不明である。
- 5) Marcius Willson (1813-1905) and the School  
and Family Readers. History of Literacy News  
Vol.XX No.1 by Peter J.L Fisher and Sheila  
Shapiro
- 6) ibid
- 7) 『小學授業法』七級、八級「下等小学授業表」  
(弘前市立図書館蔵)
- 8) 坪井玄道 (1852~1922) 明治大正期の体育家。下  
総国郡越村生まれ。明治五年東京師範学校が設  
立されたとき、教授法を講じた米国人スコットの  
通訳を務めた。明治十一年体操伝習所が設立  
されると、米国人リーランドの通訳となり、そ

の後自ら体操教師となり、普通体操、戸外遊戯  
の紹介及び体育教員の養成に努めた。

『朝日日本歴史人物事典』(朝日新聞社)

- 9) 『教育五十年史 34』第三章「創業時代の師範教育」  
p26
- 10) 『塞兒敦氏 庶物指数 上實』(明治教育古典叢  
書 国書刊行会)
- 11) 高峰秀夫 (たかみね ひでお)  
1854~1910 安政元年会津若松藩士の子として生  
まれた。明治三年東京に出て日新社にて英語を  
学び、後に慶應義塾に入学。同八年師範学校教  
育研究のため文部省から留学を命じられ、井沢  
修二等と共にアメリカに渡った。明治十一年帰  
国。  
『明治洋学人名事典』武内博 編(日外アソシエ  
ーツ)
- 12) 『教育新論』一卷 149頁、152頁
- 13) 『小学授業法』七級、八級「授業法 九」  
六丁裏~九丁表
- 14) 前掲書 六丁裏~九丁表
- 15) (1830—1898) オランダ改革派の宣教師として来  
日、1859年11月7日、大学設立の為に明治政府  
に招聘され、外国の諸制度の視察の進言や、条  
約改正のための英文の建白書作成し大隈重信に  
宛てた。明治期の日本のプロテスタント史に偉  
大な足跡を遺した。

# [参考文献]

- 1) 『文部科学省』「三 小学教則の編成」
- 2) 『弘前市教育史 上巻』『別巻年表・学校沿革』
- 3) 『和徳小学校沿革誌 明治編』
- 4) 『英語事始』日本英学史学会編
- 5) 『日本の英学 100年』明治編
- 6) 『東奥義塾一覧』明治11年7月
- 7) 『写真で見る東奥義塾 120年』東奥義塾
- 8) 『図説 教育人物事典 上(日本教育史の中の教  
育者群像) 唐澤富太郎』
- 9) 『来日西洋人名事典』日外アソシエーツ
- 10) 『吉田熊次著作集 第四巻』